

# 美術科学習指導案

指導者 重本 優紀

- 1 日 時 令和5年11月18日(土) 第1校時(9:00~9:50)
- 2 学年・組 中学校第1学年2組 計40名(男子21名,女子19名)
- 3 場 所 中学校美術室
- 4 題 材 名 しのめ文様~身近な形でパターンづくり~
- 5 題材について

本題材は、学習指導要領(平成29年告示)美術第1学年の内容A表現(2)ア(ア), A表現(1)イ(ア), B鑑賞(1)イ(ア)に重点を置いて指導を行う。東雲図画工作科・美術科がめざす生徒像にかかわって、生徒が「自分らしい感性にもとづいた美意識をもち、身の回りのさまざまな対象や環境から美しさを感じられる形や色を見つけ出し、自分の生活に生かしていく」ことを目指して設定した。本題材で取り上げる文様は、古くから自然の形の美しさを写したり、さまざまな形を構成して装飾的に表したりして、生活を彩るために日用品や建築物などに使われてきた。中でも日本の伝統文様には、青海波や矢絣など繰り返しの文様が多く見られ、着物や手ぬぐいなどにも用いられ親しまれてきた。表現活動では、生徒が自分らしさを感じられるような文様を考え、構成美の要素の一つである繰り返し(リピテーション)を使って一枚のデザインをつくり出す。東雲中学校という場所で、生徒が日々励んでいること、自分が楽しいと思っていることや好きなことに視点を当て、身近にあるものの形を使って「しのめ文様」として表す。東雲中学校で学習し、生活している自分たちの姿を文様の形に込める。その文様を小箱の装飾として用いる。東雲中学校では3月に国際交流を予定しており、自分たちが考えた「しのめ文様」を姉妹校の生徒たちにも紹介し、使ってもらう予定である。

本学級の生徒は、自分がつくりたいもの、好きなものについて選び取ったり、表現したりすることに対して積極的である。そこで、「自分のよさ」に視点を当てて、日々励んでいることや楽しいと感じていることを表現につなげられるようにしたい。1学期に色の性質について学習し、色彩が見る人の気持ちに影響を与えることや、見る人によって感じ方が変わることなどを学んでいる。また、ポスターカラーの使い方を学習しており、文様をデザインする際の配色や美しく塗る方法を意識して着彩する力を伸ばしたい。

指導に当たっては、生徒が自分で発想したことについて、どうしてその形や色を選んだのか、その組み合わせをしたのか、具体的な思いを記録できるようにワークシートを工夫し、生徒が自分の思いを語ることができるようにする。生徒が自分の思いを伝えるための方法として、構成美の要素を自分なりに表す活動を取り入れ、デザインの考え方を学ぶことで表現方法を選べるようにする。また、繰り返し(リピテーション)を考える際、形や色のつながりを意識して並べる必要があるため、試行錯誤ができるようにタブレットを活用する。

## 6 題材の目標

- (1) 形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解し、ポスターカラーなどの用具の生かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表す。
- (2) 構成や装飾の目的を基に、対象の特徴から主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練る。また、身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

- (3) 身近なものの中にある造形的な美しさや生活を豊かにするための工夫に関心を持ち、楽しく美術の活動に取り組もうとする。

## 7 指導計画（全8時間）

次	時	学習内容
1	1	文様について知る（鑑賞）
2	2	身近なものについて考える（構想を練る）
	3	形や線を整えて下がきする
	4	ポスターカラーを使って着彩する
3	5～6	繰り返しの組み合わせを考える（本時5／8）
4	7～8	文様の紹介文を考えて発表する

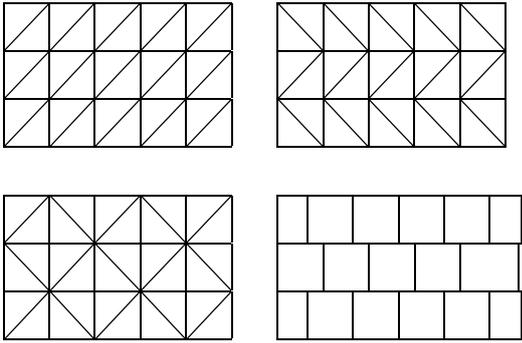
## 8 本時の目標

形のつながりを意識して繰り返しの組み合わせを考える。【思考・判断・表現】

## 9 「教科等本来の魅力に迫るための教師の資質能力」との関連

基準	具体的な児童・生徒の姿
Ⅲ	文様を並べたときの形のつながりを意識して、繰り返すことで広がっていく形のよさや美しさを感じながらつくっている。
Ⅱ	文様を並べたときの形のつながりを工夫して、自分が表したい内容をよりよく見せる繰り返しの形を考えている。
Ⅰ	文様を並べることはできているが、自分が表したい内容を具体的に説明することはできていない。
手立て【関連する教師の資質能力】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が自分の得意なことや好きなことにかかわるものを基につくる題材を設定することで、主体的に学習に取り組めるようにする。【授業構想力】</li> <li>○ タブレットを用いて組み替えを行うことで、形を組み合わせたときのつなげ方の工夫を試行錯誤しながら考えることができるようにする。【授業構想力】</li> <li>○ 文様の方向や並べ方で見え方が変わることに気付けるよう、参考作品を使って比べられるようにする。【授業構想力】</li> <li>○ ワークシートに書かれた思いを参考にしながら生徒が表したい内容をよりよく見せるためのアドバイスをする。【授業分析・評価力、授業実践力】</li> </ul>	

## 10 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 着色した作品を振り返り、繰り返し文様のつくり方を確認する。	○ プロジェクターで繰り返し文様のつくり方を説明しつながりを意識することを伝える。
形のつながりを意識して繰り返しの組み合わせを考える。	
2. 文様を写真に撮ってスライドに貼り付ける。  3. 文様の並べ方を何通りか試して形のつながり確かめる。 (例)   4. 並べた文様を4人グループで交流して、つながり方の工夫を共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文様の向きの違いでできる形の発見</li> <li>・ 枠を越えた線につながりがあること</li> <li>・ 色の組み合わせ方</li> </ul>  5. 自分の作品や仲間の作品のつなぎ方の工夫について振り返り、具体的に書き出す。	○ タブレットの使い方を確認しながら進める。  ○ ワークシートを参考にしながら、生徒が表したい内容をよりよく見せるための方法についてアドバイスする。 ◆ 美的感覚を働かせて、調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ることができている。【思考・判断・表現】  ○ それぞれの思いと工夫点が組み合わさっていることが大事だと気付けるよう言葉がけする。  ○ 自分や仲間の作品のよさを具体的に説明するよう言葉がけする。